

かつて浜松市中心部から三方原台地を通って、現在の北区引佐町奥山に達する鉄道路線がありました。遠州鉄道奥山線

です。大正3年(1914年)に浜松軽便鉄道として開業し、地域の貴重な交通機関として長く活躍した奥山線。しかし、戦後のモーターゼーションに押され、昭和39年(1964年)、廃止となりました。



わが心の浜松

昭和39年

亀山トンネルなどに面影残す 遠州鉄道奥山線の廃止

「奥山線が全線廃止となったのは昭和39年10月31日。ほぼ1カ月前の10月1日に東海道新幹線が営業開始しており、まさに鉄道の新旧交代の年でした」。そのように振り返るのは、鉄道友の会静岡支部の武田彰さん。写真です。鉄道ファン歴およそ50年の武田さんは、奥山線が廃止になった際、路線の全駅舎を撮影しました。「当時、車両を撮影した人は大勢いたと思いますが、全駅を撮ったという人は珍しいんじゃないでしょうか」と笑います。このページ下の写真もその1枚。現在の北区都田町にあった「谷」という駅を写したものです。車両の先頭には「さようなら奥山線」と書かれたヘッドマーク。「わたしはこのマークを記念にもらい受

け、現在も大切に保管しています」。現在、中区鹿谷町付近にあるレング作りの亀山トンネルなど、市内のあちこちにその面影を残す奥山線。「今まで運営されていれば、浜松の貴重な観光資源、公共交通機関になったでしょう」と武田さんは語ります。

「もし奥山線があと2、3年持ちこたえていれば、状況はずいぶん変わっていたとわたしは思います。昭和40年代以降、学校の移転や新興住宅地の開発によって、地域の輸送需要は大きく伸びました。また、軽便特有の762ミリの軌間(レールの間隔)を、JR在来線と同じ1067ミリに広げようという計画もあったんです。そうなれば、より大型の車両を運行でき、輸送効率は格段にアップしたでしょう。現在、地球環境の観点から鉄道が世界的に見直されているだけに、廃止は本当に残念だったと思います」。この意見には、鉄道ファンならずとも「なるほど」と納得できそうです。



昭和39年に撮影された奥山線谷駅と当時の車両(武田さん撮影)